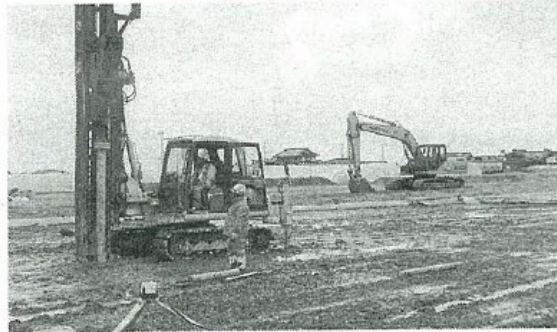


県産杉で軟弱地盤を補強

公開実験で住宅関係者に広くアピール

高原木材 地中利用の実証実験で新たな県産材
 (熊本県八代 市、石松勇志 社長) は昨年12月、熊本市で「熊本県産 盤補強工事でも十分に使用できることを改めて実証する。」

公開実験の目的は、
 県民、木材業界をはじめ
 め工務店、設計事務所
 などに広くアピールす



実験場所は熊本市南区海路口町で軟弱な
 地盤として知られる有明粘土層

Q_uの県産杉原木と円
 柱木製パイル(保存処
 理なし)を用いた打設
 が行われた。実験ヤ
 ドは打設間隔の異なる
 3区画(3・0D=4
 20_{mm}、4・5D=6
 30_{mm}、6・0D=8
 40_{mm})が用意されて
 おり、今後はブー
 取集・解析し、今年春
 ごろには結果をまと
 める予定だ。

実験場所は有明粘土
 地帯で、全国的に見て
 も軟弱な地盤。ここ
 の実験結果を設計等
 のフィールドバックす
 ることで、特に小規模建築
 物や戸建て住宅の地盤
 補強工事については、
 あらゆる地盤で県産杉
 を活用できるようにな
 る。

土分野ではこれま
 で年間約100万立方
 尺(丸太換算)の木材
 が利用されてきたが、
 将来は同400万立方
 尺への拡大余地がある
 と試算されており、こ
 のうち地中利用は15
 0万立方尺が期待され
 ている。地盤改良に木
 杭を利用することは、
 地中残さ問題を生じ
 せず炭素の固定につな
 がり、環境にも貢献で
 きる。

高原木材は、既に熊
 本県産杉材を主に活用
 した環境パイル(S)
 工法(兼松日産農林)
 を九州で展開してい
 る。大手ハウスメーカ
 ー、また老人ホームな
 ど木造物件で採用が広
 がり、同社が保有する
 2台の打設機はフル稼
 働の状況だ。

3.0尺、
 末口径14